



G-Link Voice

～お客様の声をつなぎ、現場の知恵と課題を共有するシリーズ～

Vol.1 2026.10.19

G-Link Voiceは、お客様から寄せられる声や疑問、養鶏現場での取り組みや課題などを取り上げ、皆様と知識や情報を共有することを目的としたシリーズです。お客様との双方向のコミュニケーションを通じて、より良い養鶏の実現につながる情報をお届けしてまいります。

G-Link養鶏セミナー2026の開催について

今回は、2026年9月3日に開催した「G-Link養鶏セミナー2026」を取り上げます。本セミナーでは、育種会社による最新の育種改良の同行や、当社取扱鶏種の特徴・改良状況などについてご紹介しました。

参加者の皆様から寄せられたご質問と回答

Q1. 米国は換羽なしで何日令まで飼育していますか？

米国ではシングルサイクルも増えているが、90～95週齢程度まで飼育するケースが一般的です。ケージ飼育、ケージフリー飼育のいずれにおいても、同程度の飼育期間となっています。

Q2. ジュリアやジュリアライトの産卵成績が向上していくことはわかりましたが、食下量やFCRも改善されていく傾向なのでしょうか、それとも横ばいでしょうか？

食下量は同じか若干低下、産卵成績は向上する方向であり、このためFCRは改善されていく傾向にあります。

Q3. ピュアラインとは純系と同じ意味ですか？

基本的には同じ。育種改良に用いるトリや育種改良を行っているトリをピュアラインやペディグリーと呼んでいます。また、エリート鶏と呼んでいるところもあります。





G-Link Voice

～お客様の声をつなぎ、現場の知恵と課題を共有するシリーズ～

Vol.1 2026.10.19

参加者の皆様から寄せられたご質問と回答

Q4. 累計なのに、減耗率が他鶏種で減っていたのは何故でしょうか？

配布していないスライド「ジュリアライト野外平均VS鶏種 A野外平均 累計減耗率（ヨーロッパ）」からの質問。100以上の鶏群データを用いて集計しているため、成績の悪い鶏群や良い鶏群が含まれており、各鶏群のデータが存在する期間によって平均値が変動します。特に途中で成績の悪い鶏群が終了し集計対象から外れることで、その後の減耗率が低下して見える場合があります。

Q5. 卵殻強度上がっていますが、飼料成分を変えないと発揮しませんか？

卵殻強度の持続性は上がっています。産卵後半を意識したご質問と思うが、産卵後半になると鶏の栄養成分の消化吸収能力が低下するため、鶏齢に応じて飼料内容を調整することが重要です。飼養管理ガイドに具体的に記載していますが、鶏齢によるカルシウム量の変更（増やす）、且つ、粗目の石灰石を多く与えることで、消化管にとどまる時間を長くし、消化吸収効率を改善します。これらの事が、後半の卵殻質を維持するキーとなります。また、ヨーロッパでは65週齢以降に、飼料中のビタミンEやDを水酸化ビタミンDに変更し、カルシウムの吸収・代謝を補助する取り組みも行われています。

Q6. ボリスブラウンの育種選抜の重点項目に卵固形分率がないのはなぜですか？

赤玉卵は割卵用として広く利用されておらず、白玉卵やピンク卵が多く使用されていることから、赤玉卵の選抜において特に重視される特性ではないためです。ただし、ハイライン社では赤玉卵についても継続的に確認しています。



G-Link Voice

～お客様の声をつなぎ、現場の知恵と課題を共有するシリーズ～

Vol.1 2026.10.19

参加者の皆様から寄せられたご質問と回答

Q7. どのように育成するかで変わるとは思いますが、平飼いに向く・向かない鶏種はあるのでしょうか？

平飼いを含むケージフリー飼育では、巢外卵の管理が重要なポイントの一つです。巢外卵が多くなると、回収作業にかかる労働時間が増えるなど、管理面での負担が大きくなります。

巢外卵の発生率は、鶏種だけでなく、育成方法や成鶏舎の環境、鶏舎設備などにも大きく左右されます。

その上で、現在の傾向としては、白玉鶏の方が赤玉鶏と比較して巢外卵が少ない傾向があります。一方、赤玉鶏についても、育種改良によって巢外卵を減らす方向で選抜が進められています。

Q8. 環境適応力について老鶏の産卵率が上がるのは良いですが、若齢に比べ老鶏であると暑熱などの環境による影響は受けやすくなるなどのリスクはないですか？また、体重や摂取量はある程度の週齢から変わらなくなるのでしょうか？

一般的に、老鶏になると環境の影響を受けやすくなる傾向があります。日々の飼養管理データからも、鶏齢が進むにつれ減耗率が高くなる傾向が確認されています。シュムツツ氏のプレゼンでも紹介されていたように、育種会社では、過酷な環境（暑い、寒い、餌の内容が良くない、疾病の問題がある）で試験して、その環境でも成績が出せる様な鶏を育種改良しています。

体重については、一般的に、30～35週齢以降になると大きく増体する必要はなくなり、35週齢前後以降は体重や産卵量も大きく変化しにくくなります。そのため基本的には飼料摂取量も変化しません。ただし、フェーズフィーディングによる飼料内容の変更や温度などの環境条件によって飼料摂取量が変わることがあります。





G-Link Voice

～お客様の声をつなぎ、現場の知恵と課題を共有するシリーズ～

Vol.1 2026.10.19

参加者の皆様から寄せられたご質問と回答

Q9. 選抜における強化項目の中には、暑熱ストレスへの耐性も含まれているのでしょうか？

ローマン社、ハイライン社ともに世界各地の異なる環境条件下で試験鶏（基礎鶏から交配させた鶏）を飼育し、育種改良のためにデータを収集しています。赤道直下の熱帯地域を含む高温環境でも試験を行っており、暑熱ストレス下においても産卵性への影響を受けにくい鶏を選抜するために取り組みが行われています。

Q10. ボリスの産卵持続性(長期飼育)の育種スピードより卵殻色の育種スピードのほうが早いのでしょうか？

育種における選抜項目の強化割合で示したように、現在、ハイライン社では55週齢以降の産卵持続性をより重視して選抜しています。一方、卵殻色についても引き続き選抜を行っており、毎年、より濃い卵殻色を目指して改良が進められています。

Q11. 近年暑い年が多くなっていますが、過体重のほうが、どの程度暑さに弱いのでしょうか？

脂肪は筋肉と比較して熱伝導率が低いため、体脂肪が多い鶏では、体内で発生した熱が体表面へ伝わりにくくなり、熱放散が不利になる可能性があります。

そのため、過体重・過脂肪の鶏では、標準的な体型の鶏と比較して暑熱ストレスの影響を受けやすくなる可能性があると考えられます。

Q12. 聞き逃していたら申し訳ないのですが、野外成績の事前情報として野外成績に反映されている各鶏群の鶏舎構造は割合としてセミウィンドレスまたはウィンドレスどちらの割合が多いのでしょうか？

現状は鶏舎構造で区別してデータ収集していないので、詳しい割合は不明ですが、ほとんどがウィンドウレス・ケージ鶏舎の成績です。





G-Link Voice

～お客様の声をつなぎ、現場の知恵と課題を共有するシリーズ～

Vol.1 2026.10.19

参加者の皆様から寄せられたご質問と回答

Q13. 120日齢前後で点灯刺激を、という話がありましたが、17週齢で大雛導入して斉一性に問題がなければ翌日にでも点灯アップしても良いということでしょうか？

120日齢前後での点灯刺激を一つの指標として示しましたが、今回お伝えしたかったポイントは、これまでよりも点灯刺激を早めることです。大雛導入時に、飼料摂取量が十分で、斉一性が良好であり、体重も目標とする水準に達している場合には、状況に応じて導入翌日から点灯刺激を開始することも可能です。

一方、飼料摂取量が十分でない場合には、数日間様子を見てから点灯刺激を開始する方が、産卵成績への影響を抑えやすいと考えられます。

また、現在、過体重によって卵重が過大になっている、あるいは生存率に課題がある場合には、点灯刺激を早めることで過体重を抑制できる可能性があります。

一方で、過体重ではなく、卵重や生存率にも問題がない場合には、必ずしも現在の点灯プログラムを変更する必要はありません。

したがって、日齢だけで判断するのではなく、体重、斉一性、飼料摂取量、卵重、生存率などを確認しながら点灯時期を判断することが重要です。

Q14. 長い成績の発表で、換羽のデータがありますが、これらは、断餌と誘導換羽の内訳はどうでしょうか？

野外成績の集計では、多くの場合、産卵率や食下量のデータから換羽の有無を判別しており、換羽方法については把握していません。

Q15. 換羽方法の違いによる、その後の成績の違いはどうでしょうか？

換羽方法を把握していないので、全体的な成績の差はわかりません。換羽方法がわかっている個々の鶏群で見ると、換羽後の成績は、換羽方法の違いだけでなく、換羽前の成績、換羽を行う鶏齢や季節、換羽の強度など、様々な条件に影響されます。





G-Link Voice

～お客様の声をつなぎ、現場の知恵と課題を共有するシリーズ～

Vol.1 2026.10.19

参加者の皆様から寄せられたご質問と回答

Q16. 羽つつきや仲間への攻撃性の高い家系を排除するために、どのような取り組みをしていますか？

羽つつき（フェザーペッキング）に関する取組としては、家系別グループ試験において、各遺伝系統の全家系を対象に、羽の状態およびカンニバリズムに起因する減耗率を評価しています。
この評価は、ピュアライン農場および野外農場でのクロスラインテストにて実施しています。これは育種プログラムにおいて極めて重要な形質です。

Q17. 実際に過肥による産卵率低下や卵殻質の悪化を示す野外データなどありますでしょうか？30週令の体重と65週令の産卵率や格外率との関係などのデータ有りましたら幸いです。

データがございませんので、お示しできません。

Q18. 産卵能力の遺伝率について、産卵期間を4区分に分けていますが、実際選抜に使用している期間はどこでしょうか？
卵殻について、卵殻強度の測定は縦横を測定する目的をご教示いただけますと幸いです。

遺伝率とは、ある集団において観察される個体間の差が、どの程度遺伝的な違いによって説明されるかを示す指標です。遺伝率が高い形質ほど、個体間の成績の違いに遺伝的な要因が占める割合が大きく、選抜による改良効果が得られやすい傾向があります。

各育種会社では、それぞれの育種ラインにおける遺伝率などを確認し、どの時期・どの形質を重点的に選抜することで、より効果的に改良できるかを判断しながら選抜を行っています。

卵殻強度について。卵殻強度を一方向からだけ評価すると、その方向から加わる力に対する強さは評価できますが、異なる方向からの衝撃や荷重に対する特性を十分に評価できない可能性があります。そのため、卵殻質については、卵殻強度を一方向から測定するだけでなく、縦・横など複数の方向から評価するとともに、音響による評価なども組み合わせ、さまざまな角度から卵殻質を評価しています。

